

地域住民を巻き込んだ 高齢者向け介護予防体操の開発 山陰ビジネス・ブレイン株式会社

【事業概要】

地域の社会福祉法人と連携し、介護状態を未然に防ぐ事を目的に、感情認識ヒューマノイドロボット「Pepper」を活用し、地域住民及び介護施設に通う利用者等を対象とし、介護予防体操・地域独自の寓話を企画・開発・実証サービス展開を実施した。本事業で取組んだモデルをパッケージサービス化し、地域での高齢者向け介護予防取組サービスとして普及を企図。

【参加連携団体】

- ・社会福祉法人いわみ福祉会（島根県浜田市金城町七条ハ559番地2）：実証・地域福祉サービス中核機能
- ・株式会社余暇問題研究所（東京都目黒区中根1-2-7）：介護予防体操開発
- ・フューブライト・コミュニケーションズ株式会社（東京都中央区銀座一丁目20-1）：ペッパー体操ソフト開発

【実施状況】

1. 全体企画・開発

2. 介護予防体操・ペッパーシステム・地元コンテンツ開発

3. 開発介護予防サービスの実証2回（①12月江津市：福祉施設利用者8名、②1月浜田市：地域住民13名）



【効果・課題】

実証を行った江津市・浜田市の地域住民、施設利用者101人にアンケート協力・実施の結果

①98%が「ペッパー」と体操する方が、ふだん体操するときよりも「楽しい」、②90%が体操したあと、「気持ち良い」との回答

を得られ、サービス自体への評価は得られたが、今後地域の社会福祉法人等が導入にあたっては、

① 介護施設、社会福祉法人等のペッパーレンタル費用が高額な為、サービス導入へのハードルが高い、②福祉施設における、ペッパー等の運用・教育等に対する課題が想定される。